

ぐずついた天気が続いていますが、いかがお過ごしでしょうか。

紫陽花や南天の花が咲き乱れ、

木々は青々と茂っています。

薫る南風も涼しげに

若燕が高く飛んでいます。

今日は梅雨の中休み。

今夜は、春から夏へとすっかり入れ替わった星座に

もくもくと煙る天の川が流れていきそうです。

それでは今月もいってみましょう。

2025年 6月

【主な現象】

6月 1日	金星が西方最大離角（12時29分）
6月 3日	上弦（半月）（12時41分）
6月 7日	月が最遠（19時44分）
6月11日	満月（16時44分）
6月19日	下弦（半月）（4時19分）
6月21日	夏至（11時42分）
6月23日	月が最近（13時44分） 土星が西矩（17時55分）
6月25日	新月（19時32分） 木星が合（0時10分）
6月30日	白昼の火星食（札幌：9時）

【解説】

★6月30日の火星の食は、日中に月齢4.6の月に火星が隠れますが札幌で月の出直後に低い空となり、札幌以西は月の出前となり見られません。

札幌でも日中なのと地平線近くなので見るのは困難です。

★6月1日に金星が西方最大離角となり日出時の高度は26.4°と見やすくなりますが、7月～8月に高度は更に高くなります。

★6月21日は夏至で、太陽が最も北寄りになります。

【観望案内】

★接近

- ◎ 6月10日～6月30日ごろ レグルスと火星が
夕方西の空で接近して見えます。
見ごろは20時00分ごろでしょう。
- ◎ 6月01日 火星と月（月齢 5. 3）が
夕方西の空（23時30分以前）で
かなり接近して見えます。
見ごろは20時00分ごろでしょう。
レグルスもやや近くにいます。
- 6月02日 レグルスと月（月齢 6. 3）が
夕方西の空（23時40分以前）で
接近して見えます。
見ごろは20時00分ごろでしょう。
- 6月06日 スピカと月（月齢10. 3）が
夕方南の空（6月07日 1時40分以前）で
非常に接近して見えます。
見ごろは20時00分ごろでしょう。
- △ 6月08日 水星と木星が
夕方西の地平線近く（19時40分以前）で
かなり接近して見えます。
見ごろは19時30分ごろでしょう。
- 6月10日 アンタレスと月（月齢14. 5）が
夜半前南の空（6月11日 0時00分以前）で
非常に接近して見えます。
見ごろは23時00分ごろでしょう。
- ◎ 6月17日 レグルスと火星が
夕方西の空（22時40分以降）で
非常に接近して見えます。
見ごろは20時00分ごろでしょう。
- 6月19日 土星と月（月齢22. 6）が
未明に東の低い空（0時10分以降）で
接近して見えます。
見ごろは 2時00分ごろでしょう。
- 6月22日 金星と月（月齢25. 7）が
明け方東の低い空（1時50分以降）で
接近して見えます。
見ごろは 4時00分ごろでしょう。
- △ 6月23日 ポルックスと水星が
夕方西の地平線近く（20時30分以前）で
接近して見えます。
見ごろは20時00分ごろでしょう。
- 6月27日 水星と月（月齢 2. 0）が
夕方西の低い空（20時30分以前）で
接近して見えます。
見ごろは20時00分ごろでしょう。

○ 6月29日 レグルスと火星と月（月齢 4.0）が
夕方西の低い空（21時50分以前）で
接近して見えます。

見ごろは20時00分ごろでしょう。

○ 6月30日 レグルスと火星と月（月齢 5.0）が
夕方西の低い空（21時50分以前）で
接近して見えます。

見ごろは20時00分ごろでしょう。

※ ◎：非常に接近するか、見た目が特にきれいと思います。

○：見ておもしろいと思います。

△：高度が低かったり、薄明の中であつたりで見にくいと思います。

但し、朝焼けや夕焼けと山の稜線も入れて写真にする等

意外とおもしろい可能性はあります。

◇：双眼鏡や望遠鏡で見られます。

★日没

東京での日没は

6月 1日 18時52分

6月 8日 18時56分

6月15日 18時59分

6月22日 19時00分

すっかり日の暮れるのが遅くなりました。

6月末ごろ最も日の入りが遅くなり19時台になります。

夏至近くの太陽が高く照るようになります。

★今宵の空

日が暮れると（２０時～２１時ごろ）

西にはまだ春の星座、東にはもう夏の星座が見えはじめています。

天頂付近　　うしかい座、りょうけん座、かんむり座

南の空

中　　てんびん座、うみへび座の尾部

低　　おおかみ座の一部、ケンタウルス座の一部、じょうぎ座の一部

南西の空

高　　おとめ座

中　　からす座、コップ座、うみへび座の胴体

西の空

高　　りょうけん座、かみのけ座

中　　火星、しし座、こじし座

低　　ろくぶんぎ座、かに座

北西の空

高　　おおぐま座

中　　やまねこ座

北の空

高　　おおぐま座の北斗七星、りゅう座、こぐま座

中　　きりん座、ケフェウス座

低　　カシオペヤ座の一部

北東の空

中　　はくちょう座

東の空

高　　ヘルクレス座

中　　こと座

低　　こぎつね座、や座、わし座

南東の空

高　　へび座（頭部）

中　　へびつかい座、へび座（尾部）、さそり座

低　　たて座、いて座の一部

★星のお話

おおかみ座 [狼]
L u p u s (L u p)
《 T h e W o l f 》

設定者：プトレマイオス
面積：334平方度

おおかみ座を見てみましょう

南天よりの星座で、東京辺りでは、星座の一部が地平線から昇らず見えませんが、大部分は見ることができます。

古代メソポタミア・古代エジプトでは、狂犬となっていました。^{★01)}

紀元前300年ごろのアラトスの詩にはケンタウルスが右手で捕らえている野獣と歌われています。^{★02)}「かれの手がむんずと攫んだのはそこに打ち出された(星座の)野獣(テーリオン)、先人たちはこれをかく呼んだのだ。」^{★03)}古い星図には猪の姿で描かれているものも

あるようです。ヘーラクレース(ヘルクレス座)がエリュマントス山の化け猪を生け捕りに行ったときに、ケンタウルス族の^{★02)}ポロス^{★04-1)}

(フォーロス)^{★02)}に歓待された^{★04-1)}という話から、猪に関連があり、猪の方がふさわしい^{★02)}という話もあるようです。

元はケンタウルス座の一部でしたが、ヒッパルコスによって独立した星座にされました。^{★05)}プトレマイオス(トレミー)の48星座にも採用されています。

*星の並び

南の空が澄んだ日に、さそり座の頭が真南にくるころ、さそり座の右下(南西)の方の低い空にいくつか星が見えます。この辺りが、おおかみ座です。おおかみ座は、東京辺りでは地平線から昇らない星があって一部見ることはできません。さそり座の頭の南に、細長い三角形 $\sigma-\chi-\eta$ が頭で、そこから南西の方に台形状に、 $\gamma-\varepsilon-\beta-\delta$ と並んで胴体になっています。更に南西に台形を延長するように $\zeta-\alpha$ があるはずですが、低空なのでなかなか見えません。台形の部分は α が2等星で、他は3等星なので、比較的明るい星が集まっています。東京では α が7°程度まで昇りますが、 ζ は計算上2°程度までしか昇らずカノープス並の高度しかないのと、3等星なのでまず見えません。南国に行って全体を見たいところです。西隣のケンタウルス座と境界が入り組んでいて、ケンタウルス座の2等星や3等星が近接しているので、ややこしくて境界がよく分かりません。

星座絵では、ケンタウルス(ケンタウルス座)の槍で刺されている姿になっています。

天の川の中にかかって、比較的明るい星もある美しい星座です。

プトレマイオスの星座であるにもかかわらず、あまり知られていないのではないのでしょうか。見やすい時期がちょうど梅雨になるので、見るは機会が少なくなりますが、低くて見えにくいとは言っても、さそり座の最南端と同じくらいの高度で、主要な星の大半があります。さそり座の南端と、おおかみ座がきれいに見えれば、非常に良い天気と良い空に恵まれたということで、他の星座も非常に良く見えるので、夏の星座を満喫できるでしょう。

*星の名前

α はメン(意味不明)^{★06)}

β はケコウアン(意味不明)^{★06)}

* 観望天体

天の川の近辺で星が多いところで、星団や重星が多くあります。

球状星団 NGC 5986 (双眼鏡) ^{☆07)}

重星 ξ 1 ξ 2 (双眼鏡) ^{☆07)}

重星 κ 1 κ 2 (双眼鏡) ^{☆07)}

* 補足

α 星は 2.9 等星ですが太陽の 4000 倍の絶対光度、

β 星は 2.8 等で太陽の 400 倍の絶対光度です。

二重星は

γ 星 3.6 等と 3.7 等 角距離 0.1"

π 星 4.7 等と 4.8 等 角距離 1.4"

κ 星 4.1 等と 6.6 等 角距離 26.7"

μ 星 4.4 等と 4.8 等 角距離 1.4"

ε 星 3.8 等と 9.1 等 角距離 26.1"

η 星 3.6 等と 7.9 等 角距離 15.0"

ξ 星 5.3 等と 5.8 等 角距離 10.4" ^{☆08)}

球状星団は

NGC 5824 45 万光年 10.1 等

NGC 5986 4.5 万光年 8.7 等

NGC 5927 1.0 万光年^{☆09)} 9 等^{☆08)}

散開星団

NGC 5822 6.4 等 120 個 5900 光年^{☆09)}

NGC 5593 10 個 8200 光年^{☆08)}

惑星状星雲

NGC 5873 9.7 等 1 万 3600 光年

があります。^{☆08)}

* 神話

ギリシア神話ではアルカディア^{☆10)} (アルカディアー) ^{☆04-2)} の

王リュカオン^{☆10)} (リュカーオーン) ^{☆04-2)} が大神ゼウスによって

変えられた狼となっています。

ゼウスの訪問を受けたときリュカオンが人肉を供したためゼウスの怒り

狼の姿に変えられたという話です。^{☆10)}

一説には、アルカディアーの王リュカーオーンは、たくさんいた息子^{☆08)}

(50 人) ^{☆04-2)} のほとんどを殺してしまったために獣に変えられたという

話もあります。^{☆08)}

☆01) 【星座神話の起源—古代メソポタミアの星座】 近藤二郎 誠文堂新光社】

☆02) 【星座手帖】 草下英明 社会思想社】

☆03) 【アラトス「星辰譜」(ギリシア教訓叙事詩集)】 伊藤照夫訳 京都大学学術出版会】

☆04-1) 【ギリシア神話】 アポロドーロス著 高津春繁訳 岩波書店】 第二巻 V 4 P 92

☆05) 【ほしぞらの探訪】 山田卓 地人書館】

☆06) 【星座の秘密】 前川光 恒星社厚生閣】

☆07) 【四季の天体観測】 中野繁 誠文堂新光社】

☆08) 【カラー天文百科】 小平桂一 監修 平凡社】

☆09) 【天文年鑑 2025 年版】 天文年鑑編集委員会 編著 誠文堂新光社】

☆10) 【星座の神話】 原恵 恒星社厚生閣】

☆04-2) 【ギリシア神話】 アポロドーロス著 高津春繁訳 岩波書店】

★夜更けの空

夜が更けると（２２時～２３時ごろ）

もう、すっかり夏の星座です。

天頂付近の空 ヘルクレス座、かんむり座

南の空

高 へび座（頭部）、へびつかい座

中 てんびん座、さそり座

低 おおかみ座の一部、じょうぎ座の一部

南西の空

低 からす座、うみへび座の尾部

西の空

高 うしかい座、りょうけん座

中 かみのけ座、おとめ座

低 しし座、こじし座

北西の空

中 おおぐま座

低 やまねこ座の一部

北の空

高 りゅう座、こぐま座、北斗七星の柄の部分

中 ケフェウス座

低 きりん座、カシオペヤ座

北東の空

高 はくちょう座

中 とかげ座

低 アンドロメダ座の一部

東の空

高 こと座

中 こぎつね座、や座、わし座、いるか座、こうま座

低 ペガスス座の一部

南東の空

高 へび座（尾部）

中 たて座、いて座

低 やぎ座の一部、みなみのかんむり座

★惑星

水星は、6月下旬に北西の低い空に見えます。

7月4日の東方最大離角に向かって夕方西の空で徐々に高度を上げていきます。6月下旬には日没時の高度が約 18° になります。

6月 1日は、 4時32分に昇り、 11時49分に南中します。

6月 8日は、 19時50分に沈みます。

6月15日は、 20時21分に沈みます。

6月22日は、 20時36分に沈みます。

金星は、明け方東の低い空に見えます。

6月 1日は、 2時13分に昇ります。

6月 8日は、 2時05分に昇ります。

6月15日は、 1時59分に昇ります。

6月22日は、 1時53分に昇ります。

火星は、しし座にいて、夕方西の低い空に見えます。

6月 1日は、 23時26分に沈みます。

6月 8日は、 23時09分に沈みます。

6月15日は、 22時52分に沈みます。

6月22日は、 22時35分に沈みます。

木星は、ふたご座にいて、太陽の近くにいます。

6月 1日は、 12時53分に南中し、 20時07分に沈みます。

6月 8日は、 12時32分に南中し、 19時46分に沈みます。

6月15日は、 12時12分に南中し、 19時26分に沈みます。

6月22日は、 4時37分に昇り、 11時51分に南中します。

土星は、うお座にいて、明け方東の低い空に見えます。

6月 1日は、 1時11分に昇ります。

6月 8日は、 0時44分に昇ります。

6月15日は、 0時18分に昇ります。

6月22日は、 23時47分に昇ります。

天王星は、おうし座にいて、明け方東の地平線近くにいます。

6月 1日は、 3時44分に昇り、 10時45分に南中します。

6月 8日は、 3時18分に昇り、 10時20分に南中します。

6月15日は、 2時52分に昇り、 9時54分に南中します。

6月22日は、 2時26分に昇り、 9時28分に南中します。

海王星は、うお座にいて、明け方東の低い空にいます。

6月 1日は、 1時11分に昇り、 7時11分に南中します。

6月 8日は、 0時43分に昇り、 6時44分に南中します。

6月15日は、 0時16分に昇り、 6時17分に南中します。

6月22日は、 23時45分に昇り、 5時50分に南中します。

(出没の時刻は東京での目安です)

【スター紹介】

★M58★NGC4579

おとめ座にある銀河です。

距離は5400万光年、見かけの大きさは $6 \times 5'$ ^{★11)}で、

我々の銀河系外の銀河です。

おとめ座銀河団の密集地帯の中にいますが、密集地帯の中では比較的明るい方です。それでもメシエは「マイクロメーターの糸線の影になると

見えないほど暗い」と言っている^{★12)}ように暗くて見えにくい天体です。

おとめ座の羽ペンのところの星(ϵ)と、しし座の尾のところの星

(デネボラ： β)、の間の、星があまり無いところにあります。

この辺りは、星のように見えても銀河ばかりで、他の場所のように恒星と

見比べて滲み方を見るという手も難しいので、赤道儀の目盛りで位置を

測らないと確認できません。

比較的近くで明るい星デネボラから攻めるのがよいでしょう。

赤緯環は絶対的に使えるのであらかじめ合っていることを確認して

おきます。望遠鏡にデネボラを入れたら赤経軸は動かさないで赤経環だけを

回して目盛りをデネボラの赤経11h49mにします。すぐに、今度は赤経軸を

回してM58の赤経12h38mにします。そして赤緯軸を $+11^\circ 44'$ に

合わせます。するとM58が望遠鏡に入っているはずです。

と言いたいところですが、実際にはセッティングや目盛りの読みなどの誤差

で、視野のどこかに入っていれば上等で、視野から少し外れている場合も

あります。他の場所のなら、視野を少し振ると見つかるのですが、おとめ座

銀河団の場合は、それらしき天体が視野の中にいっぱい、他の銀河が

入っているかもしれません。

更に並び方を見て特定する必要がありますが、星図を見ても銀河マークが

びっしりと重なっていて望遠鏡と見比べてもよく分かりません。

メシエ天体の探し方を詳しく解説したガイド本があれば図と見比べて

特定することができます。また、銀河団全体が入るくらいの写真レンズで

写真を撮って大きく引き伸ばしてプリントします。プリントと星図を

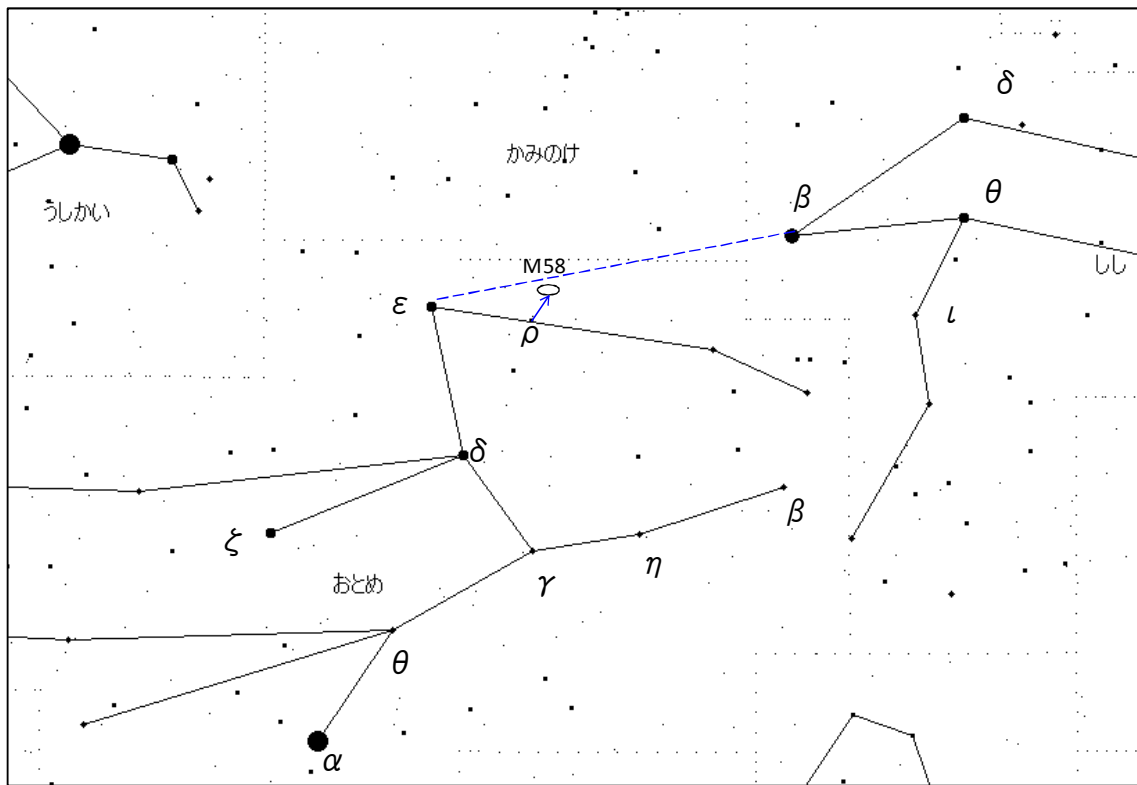
根気よく見比べて、写真に銀河の番号を書き込んでおくと便利です。

口径10cm程度の望遠鏡なら、中心が明るく周辺にぼんやり光が広がって

いる様子が見えるでしょう。(写真のように、楕円の輪郭や腕は見えません)

口径7cm程度の双眼鏡の方が、位置関係や楕円の輪郭が分かりやすいかも

しれません。



M 5 8 口径 1 3 c m にて撮影

☆11) 【 2 0 0 9 年 天文観測年表 天文観測年表編集委員会 編 地人書館 】

☆12) 【メシエ天体アルバム 月刊天文ガイド別冊 下保茂 誠文堂新光社】

【まめ知識】

★太陽の周辺減光★

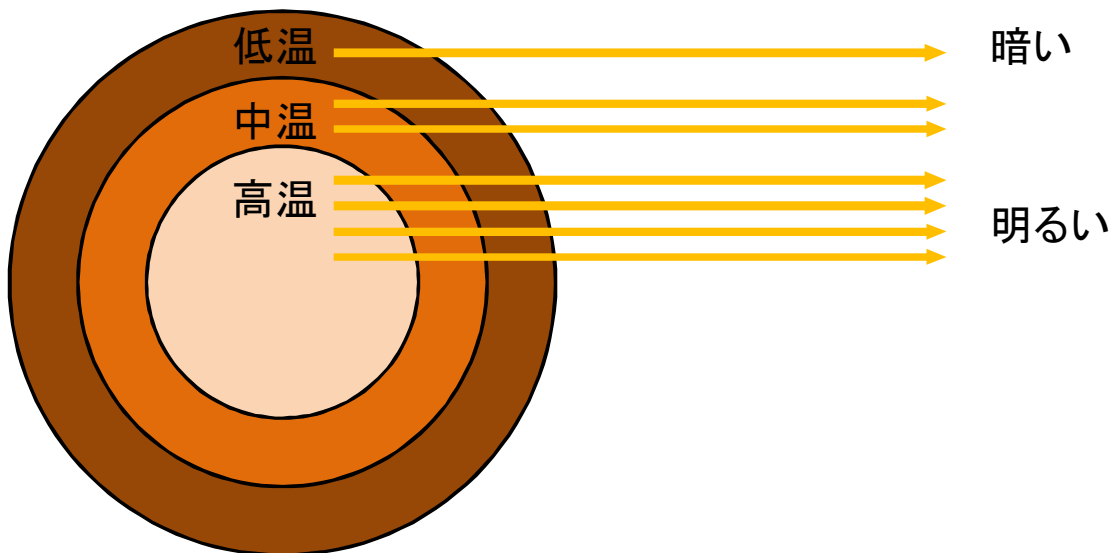
太陽の写真や投影を見ると、中央部に対して周辺が暗くなっていることが分かります。

可視光で見える太陽の面を光球と言いますが、光球は半透明なガスでできていて、太陽の表面へ行くほど温度が低く、太陽の中心方向へ行くほど温度が高くなっています。これを外から見ると、中央部は中心に近い高温の部分まで透けて見えますが、周辺では表面に近い低温の部分だけを横から見ることになり暗く見えます。

ゆえに、周辺減光を観測すると光球内の温度分布を知ることができます。透過率の高い波長の長い光で観測すると周辺減光は少なく、透過率の低い波長の短い光で観測すると周辺減光が著しくなります。

一般に、太陽以外の恒星は点像なので周辺減光を観測することはできませんが、相互に見えたり隠れたりする食変光星では光度の変化から周辺減光を推定することができます。^{☆13)}

☆13)【天文の事典 小平桂一、日江井栄二郎、堀源一郎、監修 平凡社】



付録

★水星の日没30分後の高度 2025年（東京）

		時刻	高度°	方位角°	離角°
6月	5日	19時23分	1.1	120.1	8
6月	6日	19時24分	2.0	119.6	9
6月	7日	19時24分	3.0	119.0	10
6月	8日	19時25分	3.9	118.4	11
6月	9日	19時25分	4.8	117.9	12
6月	10日	19時26分	5.6	117.3	14
6月	11日	19時26分	6.3	116.7	15
6月	12日	19時27分	7.0	116.1	16
6月	13日	19時27分	7.7	115.5	16
6月	14日	19時28分	8.3	115.0	17
6月	15日	19時28分	8.8	114.4	18
6月	16日	19時29分	9.3	113.8	19
6月	17日	19時29分	9.9	113.1	20
6月	18日	19時29分	10.4	112.5	21
6月	19日	19時29分	10.7	111.9	21
6月	20日	19時30分	11.0	111.3	22
6月	21日	19時30分	11.3	110.7	22
6月	22日	19時30分	11.6	110.1	22
6月	23日	19時30分	11.8	109.5	23
6月	24日	19時31分	11.9	109.0	23
6月	25日	19時31分	12.0	108.4	24
6月	26日	19時31分	12.1	107.9	24
6月	27日	19時31分	12.1	107.3	24
6月	28日	19時31分	12.1	106.8	25
6月	29日	19時31分	12.1	106.3	25
6月	30日	19時31分	12.0	105.9	25

それではまた。

【参考文献】

- ☆01) 星座神話の起源—古代メソポタミアの星座 近藤二郎 誠文堂新光社
- ☆02) 星座手帖 草下英明 社会思想社
- ☆03) アラトス「星辰譜」（ギリシア教訓叙事詩集）
伊藤照夫訳 京都大学学術出版会
- ☆04) ギリシア神話 アポロドーロス著 高津春繁訳 岩波書店
- ☆05) ほしぞらの探訪 山田卓 地人書館
- ☆06) 星座の秘密 前川光 恒星社厚生閣
- ☆07) 四季の天体観測 中野繁 誠文堂新光社
- ☆08) カラー天文百科 小平桂一 監修 平凡社
- ☆09) 天文年鑑2025年版 天文年鑑編集委員会 編著 誠文堂新光社
- ☆10) 星座の神話 原恵 恒星社厚生閣
- ☆11) 2009年 天文観測年表 天文観測年表編集委員会 編 地人書館
- ☆12) メシエ天体アルバム 月刊天文ガイド別冊 下保茂 誠文堂新光社
- ☆13) 天文の事典 小平桂一、日江井栄二郎、堀源一郎、監修 平凡社